

2015.2.19
vol.37

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

フラガール



2月19日(木)

① 10:30 ~ 12:30

② 14:00 ~ 16:00

炭坑の閉山で活気を失った町の再生を期して計画されたレジャー施設“常磐ハワイアンセンター”(現・スパリゾートハワイアンズ)誕生にまつわる感動秘話を映画化したハートフル・ストーリー。施設の目玉となるフラダンスを教えるため東京から呼び寄せられたダンス教師と地元の炭坑娘たちとの葛藤と心の成長を描く。3ヵ月の猛特訓を積んだという出演者たち自らが披露する迫真のフラダンス・シーンも見どころ。

< allcinema >

監督 : 李相日
音楽 : ジェイク・シマブクロ
出演 : 松雪泰子、豊川悦司
蒼井優、山崎静代

上映時間 : 120分
製作国 : 日本
制作年 : 2006年

サロン・ド・シネマ

場所 : ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。
映画の上映前にご利用ください。

また、午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。



映画を読む 『フラガール』

第30回日本アカデミー賞：最優秀作品賞・最優秀監督賞
最優秀脚本賞・最優秀助演女優賞・話題賞受賞

主演は松雪泰子。演じるのは、かつてSKD(松竹歌劇団)で活躍したこともあり、ハワイでフラダンスを習ったという触れ込みで、東京からダンスを教えに来る平山まどか役。鼻持ちならない“東京の女”が、踊りに熱中する少女たちと接するうちに、厳しくも懐の深い教師へと変貌していく。その大きな変化を、松雪は実に見事に演じきっているが、特筆すべきは、誰もいない練習室で踊るタヒチアダンスの圧倒的な迫力だ。松雪が3カ月にわたる猛特訓を重ねた、その成果がここに結実している。

また、まどか先生の粋な60年代ファッションとヘアスタイルも、要注目。おしゃれとは無縁のすすけた炭鉱町を、『奥さまは魔女』のサマンサ・スタイルで闊歩し、居酒屋で酒をあおる姿が、かっこいい。炭鉱娘たちにとって、こんなに洗練された女性が教えてくれるものだからこそ、フラダンスへの熱意はさらに増す。

そして、蒼井優を筆頭に、炭鉱に咲く花となるフラガールたちを演じる面々もまた、厳しい特訓に耐えて、華やかな踊りを披露。本作が本格的映画女優デビューになる南海キャンディーズ・“しずちゃん”こと山崎静代の、個性光るフラと演技にも御注目！

この映画はプロデューサーの石原仁美さんが企画。テレビ番組を見ていて、炭鉱娘がフラガールになったという「常磐ハワイアンセンター」の創業の物語を知り、これ映画になるかな、と思った日から、公開になるまでが3年かかったそうだ。

右の文章は、糸井重里「ほぼ日刊イトイ新聞」の「いまさらフラガール！～おくれればせながら、応援します。」の石原さんへのインタビューから抜粋しました。(e3)

実は『フラガール』は、社内でなかなか企画が通らなかった作品なんです。何回も何回もシナリオをリライトして……。脚本を、8稿くらい書いているんです。原作がなく、何も無いところから生むので、ものすごくリライトしないと完成しないんです。

『フラガール』のような映画の場合、脚本が設計図であり、それで役者を口説くわけですから、まずは設計図をちゃんと作らなければいけないわけです。そこに、時間がかかるんです。ですから何度もリライトが必要だし、長いものは1年、2年かかります。

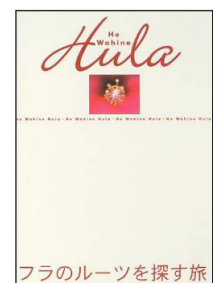
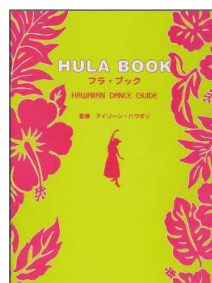
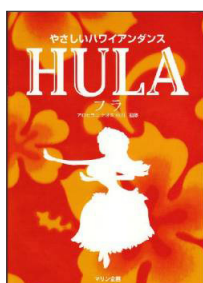
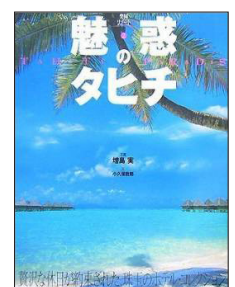
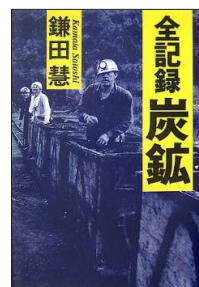
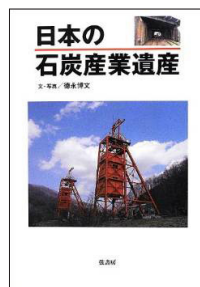
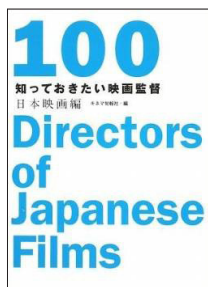
ダンサーの役は普通にフラダンスのできる人にやらせてもらってもよかったんです。でも、あえてダンス経験もあまりない女の子たちにやっていただきました。全員、一からやっていただく、と。松雪さんにも蒼井さんにもやっていただくわけですから。3ヶ月練習して、2ヶ月撮影して。あの当時の炭鉱娘が舞台に立ったドキュメンタリー、そのままなんです。

ブームだから企画したのではなくてね、企画しているうちに、フラダンスブームが来たというのは、わたしにしても不思議なことなんです。……これって、不思議なんですけれど、誰かに作られたような気がするんですよ。

企画したから全部映画になるとは限らない。だけど、これだけは誰かに「諦めないで！ 諦めないで！」って言われてる感じがして。……不思議なんですよ。ここまですんばれたのってなんなんだろうって思います。誰かに作られたような感覚っていうのはそういうことなんです。



『『フラガール』を支えた映画ファンドのすごい仕組み』	岩崎 明彦／著	角川SSコミュニケーションズ	778.09
『知っておきたい映画監督 日本映画編』		キネマ旬報社	778.28
『るるぶスパリゾートハワイアンズ [2013]』		JTBパブリッシング	G291
『るるぶスパリゾートハワイアンズ [2012]』		JTBパブリッシング	G291
『フラガール 3.11』 つながる絆	清水 一利／著	講談社	689
『ドラマで学ぶ経営学入門』 ～『王様のレストラン』の組織論から『フラガール』の経営戦略まで～	河西 邦人／著	PHP 研究所	335.1
『フラダンスのはじめ』	伊藤 彩子／著	WAVE 出版	799
『フラを踊ろう!』 モアナ羽田の優雅なフラダンス入門	モアナ羽田／講師	ソフトバンククリエイティブ	799
『やさしいハワイアンダンス HULA』	アロヒラニナオミ中川／監修	マリン企画	799
『フラを踊ってみたいそんな人にオススメの本』 オールカラーの連続写真でわかりやすくフラを解説	ハーラウ・フラ・オ・カイオ ロヒア／監修	ディーイーピー	799
『フラ・ブック』 ハワイアン・ダンス・ガイド	アイリーン・ハウオリ／監修	Parco	799
『新はじめてのフラ』 ハワイを感じていたいから、健康的に美しくなりたいから		イカロス出版	799
『フラのルーツを探す旅』 He wahine hula		キッズネット	799
『魅惑のタヒチ』 贅沢な休日が約束された、珠玉のホテル・コレクション	増島 実／写真	JTBパブリッシング	297.5
『全記録炭鉱』	鎌田 慧／著	創森社	567
『日本の石炭産業遺産』	徳永 博文／文・写真	弦書房	567



インフォメーション

『死刑台のエレベーター』感想

- ・昔見逃したので今日はとてもうれしかった。
- ・フロランス（ジャンヌ・モロー）の強さと純粹さに感心し、とても好きになってしまった。
- ・ジャンヌ・モローを見たくて来ました。余韻があった素敵でした。
- ・ジャンヌ・モローが山口敏子に雰囲気似ていた。警部役の人が素敵でした。
- ・よかった！ ジャンヌ・モロー、マイルス・デイビス、メルセデス 300SL。
- ・映画とマイルスのペットのマッチングが最高。
- ・大人のストーリー。バックメロディーがよい。
- ・サスペンスは大好きです。ハラハラしました。
- ・上手の手から水がもれるというように、人間に完全な人なんかあり得ない。
- ・47年前の映画だが本当に感動しました。
- ・とても懐かしく青春時代を思い出しました。
- ・本日の作品はよかった。同時代のハードボイルド男優のロベール・オッセンの作品も見たい。
- ・古い映画のよさを感じました。ストーリーは今の時代からはややラフに感じた。
- ・最高。時間が短く感じられました。
- ・感情移入しすぎて胃が痛かったです。ラストが見事でした。
- ・It made me feel younger!
- ・電化製品がすごかった！

※ 先々回に続いて、午後の上映会に「葵」武将隊の「水野勝成」氏がサポーター同伴で参加。上映前の舞台からエールをいただきました。



次回上映会のご案内

『巴里の屋根の下』

4月16日（木）

① 10:30 ~ 11:45

② 14:00 ~ 15:15



ルネ・クレール監督がパリの下町情緒を叙情的に描き出したラブロマンス。パリの街頭で楽譜を売る青年・アルベールは、ルーマニア出身の美女・ポーラと出会い、ひと目惚れする。ある日、ひよんなことから部屋を締め出された彼女が居候することになり…。(「キネマ旬報社」データベースより)

監督：ルネ・クレール

出演：アルベール・プレジャン

ポーラ・イルリ

上映時間：75分 制作年：1931年

※都合により、当初の上映予定作品から変更になりました。

今後の上映予定（毎回木曜日）

5月21日 『誓いの休暇』

6月18日 『未完成交響楽』

8月6日 ★『遠い空の向こうに』

9月17日 『地下室のメロディー』

10月15日 ★『エデンの東』

12月17日 『群衆』

1月21日 『トップ・ハット』

2月18日 『雨の朝パリに死す』

※ 開催日及び上映作品は、変更になる場合があります。

※ ★はレンタル作品です。

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター 受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円（各回6名まで）
申込みは、1週間前までに
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 090-6574-3312